SUMCO

株式会社 SUMCO　CSR報告書

2018

SUMCOビジョン

1. 技術で世界一の会社
2. 景気下降局面でも赤字にならない会社
3. 社員が活き活きとした利益マインドの高い会社
4. 海外市場に強い会社

代表取締役 会長兼CEO
橋本 眞幸

代表取締役 社長兼COO
降屋 久

「良き企業市民」であることを目指して

スマートフォンやパソコンなどの情報端末をはじめとして、大量の情報を処理・保存するデータセンターや通信ネットワーク機器、テレビ・エアコンなどの家電製品、自動車や電車といった乗り物に至るまで、私たちの生活のあらゆる場面で、半導体デバイスが使われています。その半導体デバイスの基板材料であるシリコンウェーハも、私たちの生活を支える欠かせない存在だと言えるでしょう。

SUMCOは、そのシリコンウェーハをつくっています。SUMCOグループは、シリコンウェーハの供給を通して、産業の発展と人々の生活の質の向上に貢献するという理念のもと、「良き企業市民」であることを目指して、「SUMCO CSR方針」に基づき、CSR活動に取り組んでおります。

コンプライアンス

当社は、役員・従業員が守るべき行動基準として「SUMCO行動憲章」を制定、実施しています。

「SUMCO行動憲章」は、法令遵守に加えて、公正な事業活動、反社会的勢力との関係遮断、輸出管理手続の遵守など、広く企業が守るべき社会規範もその内容としています。

SUMCOグループでは、グループ各社においても同等の行動憲章を制定、実施しており、今後ともグループ全体として社会的良識に則した健全な企業活動を遂行してまいります。

コーポレート・ガバナンス

SUMCOグループは、コーポレート・ガバナンスの更なる充実を通して、経営の公正性、効率性、透明性の確保を図っております。

当社は、2016年3月に「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」へ移行しました。取締役会で議決権を持つ監査等委員である取締役が、取締役の業務執行の監督を行うことで、取締役に対する監査・監督機能の実効性が向上いたしました。

当社の監査等委員会は6名で構成しており、過半数の4名は独立社外取締役です。独立社外取締役には、弁護士、公認会計士の資格を持つ経営コンサルタント、行政分野・企業経営の経験者、並びに金属素材分野研究の専門家を選任しております。多様なバックグラウンドに基づく幅広い知見・見識を取り入れ、取締役会において当社の持続的成長と中長期的な企業価値向上に資する議論を、活発に行っています。

リスクマネジメント

SUMCOグループの世界シェアは約3割であり、世界の電子機器の多くはSUMCOグループ製のシリコンウェーハを使用していることになります。当社は、製品の安定供給が経営の最重要課題であるとともに、社会に対する責務であると考えております。

当社は、安定供給の確保に向けたリスク対策を図るとともに、サプライチェーンにおける措置も含めたBCP（事業継続計画）の整備・改善を進めております。

環境保全の取組み

シリコンウェーハの製造には、多量の電力・水・化学物質が必要です。このため、SUMCOグループは環境目標を設定し、電力・水・化学物質の使用量、産業廃棄物の排出量の削減に取り組んでいます。

また、有害な化学物質や廃棄物の管理を徹底し、環境リスクの最小化に努めております。

ステークホルダーの皆様とともに

SUMCOグループは、シリコンウェーハの供給を通して社会の発展に貢献すると同時に、SUMCOグループを支えていただいているステークホルダーの皆様に貢献する企業を目指しております。

2017年は、「従業員の安全と健康がすべてに優先する」との理念のもと、従業員の健康を重要な経営資源の一つと捉え、「健康経営」への取組みを強化しました。健康統括役員を先頭に、喫煙率の低減やメンタルヘルスケアなどについて目標を設定し、様々な活動を推進しています。また、健康維持・増進は従業員自身の日常的・自発的な活動がベースとなるため、家族ぐるみで意識を持って取り組めるよう、従業員の家族にも働きかけを行っております。

今後も、ステークホルダーの皆様と様々な対話を行い、ステークホルダーの皆様のご意見・ご要望を積極的に取り入れ、経営に活かしたいと考えております。

ステークホルダー関係図

当社は事業活動を支えていただいているステークホルダーの皆様に対して、企業としての責任を果たしていきます。

ステークホルダーの皆様に対する主な責任

お客様に対して
- 顧客満足度の向上（製品やサービスの品質の維持・向上）

株主様に対して
- 利益還元（配当等）
- 企業価値の向上

お取引先に対して
- 強固で良好なサプライチェーンの構築

従業員に対して
- 雇用の確保
- 利益還元（賞与等）
- 職場環境の整備（メンタルヘルス、育児・介護休暇）

地域社会に対して
- 雇用の創出・納税
- 地域環境整備
- 地域教育活動支援

CONTENTS

トップメッセージ …… 1
目次・編集方針 …… 3
SUMCOグループの概要 …… 4
SUMCOグループの事業紹介 …… 5
SUMCOビジョン …… 7

マネジメント

SUMCOのCSR …… 9
コンプライアンス …… 9
コーポレート・ガバナンス …… 11
リスクマネジメント …… 13

環境報告

環境マネジメント …… 15
事業活動における環境負荷 …… 17
地球温暖化防止への取組み …… 19
廃棄物削減への取組み …… 20
水資源の有効活用 …… 20
化学物質管理 …… 21
環境負荷 (SUMCO Phoenix Corporation) …… 22

社会性報告

お客様との関わり …… 23
お取引先との関わり …… 25
株主・投資家との関わり …… 27
地域社会との関わり …… 28
従業員との関わり …… 31
安全・健康衛生への取組み …… 34

サイトデータ …… 37

編集方針

本報告書は、SUMCOグループのCSRに関する考え方や取組みについて、ステークホルダーの皆様にご報告し、ご理解いただくことを目指しています。本報告書の作成にあたっては、GRI (Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第4版」の内容を一部参考にしています。

報告対象期間

2017年1月～2017年12月
報告対象期間が上記と異なる場合は、個別に注記します。

報告対象組織

株式会社SUMCOおよびそのグループ会社を対象としています。本報告書で、「当社」と記載している場合は、株式会社SUMCOを表しています。主要財務データは、株式会社SUMCOおよびその連結子会社を対象としています。その他の実績データの対象範囲は個別に注記しています。

発行年月

2018年5月(次回:2019年5月予定)

見通しに関する注意事項

本報告書に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際は、様々な要因の変化により、記載された見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

SUMCOグループの概要

(2018年4月1日現在)

会社概要

商　　号	株式会社SUMCO
本　　社	東京都港区芝浦一丁目2番1号
設　　立	1999年(平成11年)7月30日
主要事業	半導体用シリコンウェーハの製造・販売
資 本 金	138,718百万円
代 表 者	代表取締役 会長兼CEO　橋本 眞幸
グループ会社	国内7社、海外12社

グループ会社

国内

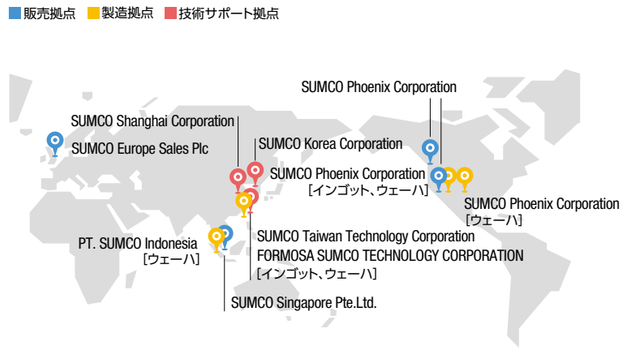
SUMCO TECHXIV株式会社
SUMCOテクノロジー株式会社
SUMCOサービス株式会社
SUMCOサポート株式会社
SUMTECサービス株式会社
SUMCO保険サービス株式会社
日本台塑勝高株式会社

海外

SUMCO Phoenix Corporation
SUMCO Southwest Corporation
SUMCO Funding Corporation
STX Finance America, Inc.
SUMCO Personnel Services Corporation
SUMCO Europe Sales Plc
PT. SUMCO Indonesia
SUMCO Singapore Pte.Ltd.
SUMCO Korea Corporation
SUMCO Taiwan Technology Corporation
SUMCO Shanghai Corporation
FORMOSA SUMCO TECHNOLOGY CORPORATION

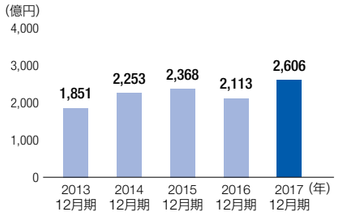
国内ネットワーク

海外ネットワーク

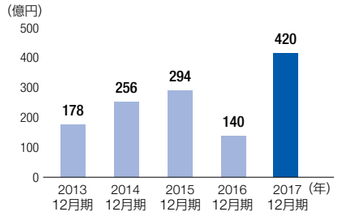


主要財務データ

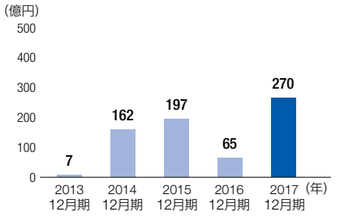
売上高(連結)



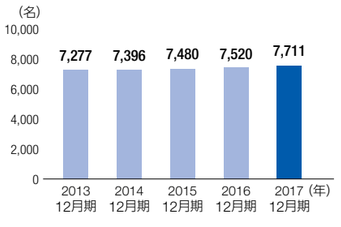
営業利益(連結)



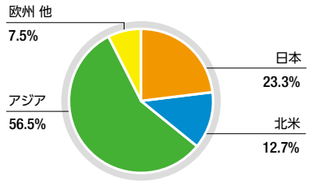
親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



従業員数(連結)



地域別売上高構成比(2017年12月期)

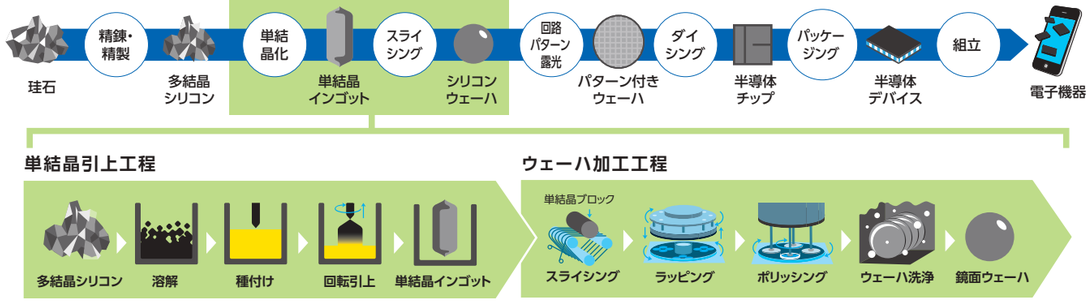


※ 2013年12月期は2013年2月から2013年12月までの11ヶ月間

私たちの生活を支えるSUMCOの製品

SUMCOは、半導体デバイスの基幹基盤となるシリコンウェーハをつくっています。
SUMCOのシリコンウェーハを主要な材料とする半導体デバイスは、
私たちの身近にある携帯電話、パソコン、スマートフォン、デジタル家電等の電子機器、自動車や医療機器、
産業用機械の制御装置のみならず、交通機関や公共インフラの制御に至るまで、
幅広く私たちの生活を支えています。

シリコンウェーハの製造



シリコンウェーハの製造プロセスには単結晶引上工程とウェーハ加工工程とがあります。単結晶引上工程では、原料の多結晶シリコンを溶解し、単結晶インゴットを製造します。ウェーハ加工工程では、単結晶インゴットをスライスして、円盤状にしたものを研磨・洗浄し、表面を鏡面に仕上げます。

スマートフォン タブレット・パソコン

通信機器には、電子メールやインターネットの閲覧など各種アプリケーションを動かすためのロジック、写真撮影用のセンサー、写真データなどを保存するためのメモリーなど、多くの最先端の半導体が使われ、年々高機能化しています。これらの半導体にSUMCOのシリコンウェーハが使われています。

IoT・デジタル家電

ウェアラブル端末や、スマートフォンで操作可能なデジタル家電など、さまざまなモノがインターネットにつながるIoT機器。これらに搭載されているデータ通信用の半導体やセンサーには、SUMCOのシリコンウェーハが用いられています。

電車・新幹線

電力の制御を行うパワー半導体と呼ばれるデバイスは、技術的にも複雑で特殊な領域です。
特に、電車など1000Vを超える重電分野での電源制御では、シリコンウェーハにも特殊なノウハウが求められます。

ICカード機器

データセンター（サーバールーム）

スマートフォンやパソコンの高機能化に伴い、高画質の写真や動画など膨大なデータがクラウド・コンピューティングで処理され、データセンターに保存されています。膨大な情報を保存し処理するメモリーやロジックには、SUMCOの高精度最先端シリコンウェーハが使われています。

カメラ

大切な思い出を記録するデジタルカメラや公共の安全を守る監視カメラ。これらの機器が映像・画像を撮影する際の「眼」となるのがイメージセンサーと呼ばれる半導体デバイスです。このイメージセンサーの高い品質・信頼性も、SUMCOのシリコンウェーハが支えています。

自動車

いまや自動車の内部では、数多くの半導体デバイスが機能しています。電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV・PHV）のモーター制御や、自動運転・自動ブレーキ・車線キープ機能といった運転支援システムに使われるシリコンウェーハには、きわめて高い品質信頼性が要求されます。

医療機器

医療技術の進歩を背景に、人命に関わる重要なものだからこそ、医療機器の世界でも高い信頼性をもつシリコンウェーハが求められています。

発電施設・公共インフラ

SUMCOは、全社員一丸となって、エクセレントカンパニーを目指します

1 技術で世界一の会社

SUMCOの技術力と安定した製品供給実績はお客様から高い評価を受けています。実際、サプライヤー表彰制度を持つ多くの半導体メーカーから高い評価を得て、表彰されています。

2018年3月には、世界トップの半導体メーカーであるインテル社から16年連続となる「Supplier Continuous Quality Improvement(SCQI)賞」をいただきました。また、ファウンダリートップのTSMC社からは、「Excellent Performance賞」を4年連続で受賞しました。さらに、世界最大の半導体メモリーメーカーであるサムスン社からは「2017 Best in Value賞」を受賞し、半導体売上高トップ3社から4年連続で同時受賞という快挙を達成しました。

こういった高い評価を更なる起点に、お客様への長期的なコミットメントや相互信頼に基づいた協業活動を推進し、一段の技術力向上に注力してまいります。

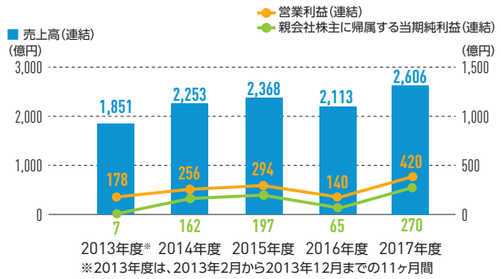
1 Supplier Continuous Quality Improvement(SCQI)賞(インテル社)
2 Excellent Performance賞(TSMC社)
3 BEST in Value賞(サムスン社)

2 景気下降局面でも赤字にならない会社

シリコンウェーハ市場は、事業環境が短期間に大きく変化するという特徴があります。SUMCOグループでは、景気下降局面でも赤字にならない収益体質の実現を目指し、コスト低減による損益分岐点の改善を進めています。

今後も、コスト低減、品質向上、製品の他社との差別化により、景気下降局面でも収益を確保できる企業体質を目指してまいります。

売上高・営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益



※2013年度は、2013年2月から2013年12月までの11ヶ月間

3 社員が活き活きとした利益マインドの高い会社

会社を実際に動かしているのは、会長・社長や役員ではなく、従業員です。

SUMCOグループでは、従業員一人ひとりがSUMCOビジョンを共有し、利益やコストの意識を持って、課題の発見と解決に取り組んでいます。こうした従業員の意識・活動を醸成するため、会長兼CEO・副会長・社長兼COOが各工場を回って「経営状況説明会」を頻繁に開催し、環境に即応した経営課題の共有化を行っています。

また、会社で働く従業員一人ひとりのモチベーションが高くなければ、SUMCOビジョンに定める「技術で世界一の会社」も「赤字にならない会社」も実現することはできません。SUMCOグループでは、様々な表彰制度を設け、従業員の努力と成果を適切に評価しそれに報いることで、従業員のモチベーション向上を図っています。

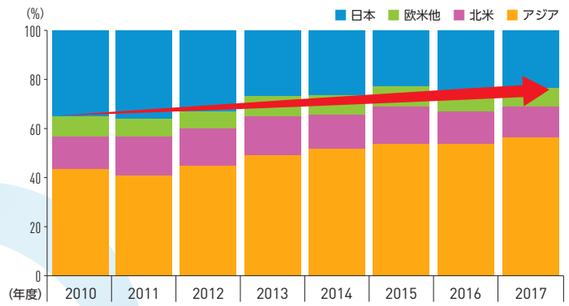
さらに、育児にあわせて柔軟に勤務時間を選択できる多様な勤務メニューの完備や、事業所内保育所を当社最大拠点の九州事業所伊万里地区に開設するなど、従業員の仕事と育児の両立を支援する取組みを進め、従業員にとって働きやすい職場づくりを進めています。

1 全社TPM発表会
2 経営状況説明会(瀧井副会長)
3 SUMCO Europe Sales Plcの従業員
4 SUMCO Phoenix Corporationの従業員

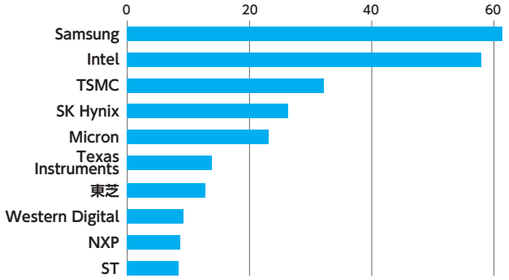
4 海外市場に強い会社

SUMCOグループは、日本をはじめアメリカ・台湾・インドネシアに製造拠点を持っているほか、世界各地に販売拠点を持ち、世界中の半導体メーカーにシリコンウェーハを供給しています。SUMCOグループの売上高の実に8割近くは海外市場によるものであり、半導体売上高世界トップ10の全ての企業が、SUMCOグループのお客様です。これらのお客様と長年にわたり強固な信頼関係を築いてきたことは、SUMCOグループの大きな「強み」であり、この「強み」を更に強化するため、国籍を問わず、優秀なグローバル人材の育成を積極的に行っています。

海外売上比率



半導体売上高トップ10 (2017年) (単位:10億ドル)



※Fablessを除き、Foundryを含む
出典:各種統計をもとにSUMCO作成

SUMCOのCSR

SUMCOグループは、半導体デバイスの基幹基板であるシリコンウェーハの供給を通して、産業の発展と人々の生活の質の向上に貢献するという理念のもと、「良き企業市民」であることを目指してCSR活動に取り組んでいます。

SUMCO CSR方針

1. SUMCOは、先端技術に支えられ、優れた品質・性能・安全性をもつ製品とサービスを安定して供給し、お客様の満足と信頼を得て、社会の持続的発展に貢献して参ります。
2. SUMCOは、適正な利潤を産み出して、企業価値を成長させ、適時適切な情報開示を進め、株主・投資家の皆様への還元を目指します。
3. SUMCOは、法令・国際ルール・社会規範を遵守して誠実に事業を展開し、リスクマネジメントを実施して企業活動を継続します。
4. SUMCOは、お取引先の皆様を公正で合理的な基準により選定し、信頼関係を築きながら、共に繁栄して参ります。
5. SUMCOは、環境に配慮し、資源・エネルギーを有効に活用し、排出を統制します。
6. SUMCOは、SUMCOで働く人に、安全・健康・快適で適正な職場を確保し、人権・能力・個性を尊重して、公正で多様な働き方を実現します。
7. SUMCOは、様々な文化・歴史を尊重し、社会および地域の皆様と交流を広げて参ります。

コンプライアンス

SUMCO行動憲章

SUMCOグループは、社会的責任を果たしつつ更に成長するための行動基準として、法令遵守のみならず広くCSR全般について当社社員が守るべき規範を定めた「SUMCO行動憲章」を制定し、社内の様々な規定や遵守プログラムの上に位置する最高位の規定として位置付けています。

この「SUMCO行動憲章」の一層の浸透を図るため、社内イントラネットに常時掲示するとともに、全従業員を対象に定期的に教育を行っています。

また、「SUMCO行動憲章」に基づき、コンプライアンスの最高責任者として遵法担当役員を設置し、遵法担当役員は、各部門・関係会社の責任者を通じて「SUMCO行動憲章」の遵守状況を確認し、定期的に取締役会に報告してレビューを受けています。

さらに、法令遵守を確実なものとするため、「法主管規定」により事業遂行上関係する法令の主管部門を定め、各主管部門が法令の制定・改廃状況を継続的にモニタリングするとともに、監査部門による内部監査でも、法令遵守状況の確認を行っています。

コンプライアンスに関して問題が発見された場合には、遵法担当役員の指揮のもと、関係部門が協力して直ちに原因の究明・再発防止にあたります。

内部通報窓口の設置

当社は、法令違反行為や「SUMCO行動憲章」への違反行為を通報できる内部通報制度を導入しています。従業員が安心して通報できるよう、内部通報窓口として社内窓口のみならず社外窓口（弁護士）も開設し、匿名での通報を認めるとともに、通報者への報復を厳に禁じています。

内部通報制度の利用方法や相談窓口については、社内イントラネットに常時掲示しているほか、全従業員を対象に定期的に行う「SUMCO行動憲章」教育において解説することで、従業員への周知徹底に努めています。

公正な事業活動・反腐敗

当社は、公正な事業活動の推進、および贈収賄を含む腐敗の防止の観点から、「SUMCO行動憲章」において、法の遵守、公正な競争および公務員等への不正な利益供与の禁止を明記するとともに、詳細な定めを「利益供与等取扱規定」に置いています。

「利益供与等取扱規定」では、(1)違法な政治献金・寄付や、(2)公務員の職務に関連した接待・贈答、(3)株主の権利行使に関する財産上の利益供与、(4)社会的常識の範囲を超えた過剰な接待、贈答等、一切の違法な利益供与および社会的常識に照らし不正・不当と認められる取引全般を禁止するとともに、寄付・賛助、交際費、慶弔費、外部団体会費、業務委託等について基準を定め、適切な決裁を経て実施することとしています。

当社では、「利益供与等取扱規定」を社内イントラネットに常時掲示し周知を図るとともに、「SUMCO行動憲章」の研修を通じて全ての役員・従業員に周知徹底し、その遵守状況を定期的に遵法担当役員に報告しています。

輸出管理

当社は、国際的な平和および安全の維持を目的とする安全保障輸出管理を適切に行うために、「SUMCO行動憲章」において輸出管理規制を遵守すべきことを明記するとともに、「安全保障輸出管理規定」に基づき、顧客審査・取引審査を実施のうえ、貨物の輸出や非居住者に対する技術の提供に際しては、当該規定に基づき適切な手続きを実施しています。

反社会的勢力との関係遮断

当社は反社会的勢力との関係を絶ち、反社会的勢力からの不当な要求に応じないことを「SUMCO行動憲章」に明記し、教育・研修を通じて、役員・従業員に周知徹底しています。

知的財産についての取組み

SUMCOグループでは、知的財産を重視し事業の戦略的ツールとして活用するとともに、第三者の知的財産権を尊重することを基本方針としています。

この基本方針のもと、知的財産の取得、維持および活用、侵害の予防、知的財産の教育に関して「SUMCO行動憲章」および「知的財産規定」に定め、知的財産部を中心として各部門と連携を取りながら積極的な活動を続けています。また、取得した権利については定期的な見直しを行うことで新陳代謝を図り、適正なコストの維持にも努めています。

情報の管理

当社は、情報を適切に使用・管理すべきことを「SUMCO行動憲章」に明記するとともに、「情報管理規定」やその関連規定・ガイドライン等を制定し、営業秘密や顧客情報の漏洩防止等に努めています。

さらに個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」に基づき「個人情報管理規定」を制定し、個人情報の適切な管理を図っています。

情報漏洩対策

当社は、情報漏洩対策として、インターネットを経由した外部からのコンピュータシステムへの攻撃やコンピュータシステムの不正利用、コンピュータシステムのウイルス感染といった各種リスクに対し対策を講じ、情報の社外への流出を防いでいます。

紛争鉱物について

タンタル、錫、金またはタングステンのいずれも、当社の製品の機能性または生産に必須ではなく、よって当社の製品は、米国の2010年成立のドッド・フランク ウォールストリート改革および消費者保護法による紛争鉱物規制の対象ではないと認識しています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制

❶コーポレート・ガバナンス体制に関する考え方

当社は、監査等委員会設置会社制度を採用しています。この制度の採用により取締役会において議決権を持つ監査等委員である取締役が監督を行うことによる監査・監督の実効性の向上、並びに内部監査部門を活用した監査の実施による内部統制の実効性が向上しました。

❷取締役会の構成・役割

当社の取締役会は、各担当業務における業績およびマネジメント能力に秀でた社内取締役と、専門的な知識および経験の豊富な社外取締役で構成することにより、取締役会全体としての知識、経験、能力のバランスおよび多様性を確保するという基本方針に基づき、取締役(監査等委員である取締役を除く)6名および監査等委員である取締役6名(うち4名は独立社外取締役)で構成されています。

当社の取締役会は、法令、定款および取締役会規則に基づき、経営戦略、経営計画、その他経営に関する重要な事項の決定を行い、各取締役から職務の執行状況の報告を受け、コンプライアンス、内部統制やリスク管理の運用状況、関係会社の重要な業務執行の監督を行うとともに、独立社外取締役も参加した自由な意見交換のもとで適切に会社の業績等の評価を行い、その評価を経営幹部の人事に反映しています。

また、当社は、決算等に関する事項、経営計画に関する事項のほか重要な業務執行については、独立社外取締役を含めた取締役会で十分議論を行ったうえで決定することを基本方針としています。そのため、重要な業務執行の決定を取締役に委任できる旨を定款に規定していません。

❸独立社外取締役

当社は、独立社外取締役として、弁護士、公認会計士の職務経験をもつ経営コンサルタント、行政分野における職務を通じて培われた幅広い経験・知見並びに長年にわたる企業経営に関する経験を有する者、および金属素材分野研究の専門家としての知識と長年の大学教授としての経験を有する者の4名を選任しています。

また各独立社外取締役は、当社の「独立性の基準」(後掲)を満たし、一般株主との間で利益相反が生ずるおそれがないと認められる者であることも要件としています。

各独立社外取締役は、SUMCOグループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、経営の方針や経営改善について自らの知見に基づき助言を行い、少数株主をはじめとするステークホルダーの皆様の視点に立って経営の監督を行い、取締役候補者の選任その他取締役会の重要な意思決定に参加し、取締役会および経営陣等の業務執行並びに当社と経営陣等の間の利益相反を監督します。

❹監査等委員会

当社の監査等委員会は、監査等委員である取締役6名(うち過半数の4名は独立社外取締役)で構成されています。監査等委員会の活動の実効性確保のため、監査等委員の互選により常勤の監査等委員を置くとともに、監査等委員のうち最低1名は、財務・会計に関する相当程度の知見を有する者とするよう努めることを基本方針としています。また当社は、監査等委員会の活動を補助し監査の円滑な遂行を支援するため「監査等委員会室」を設置し、スタッフを配置しています。

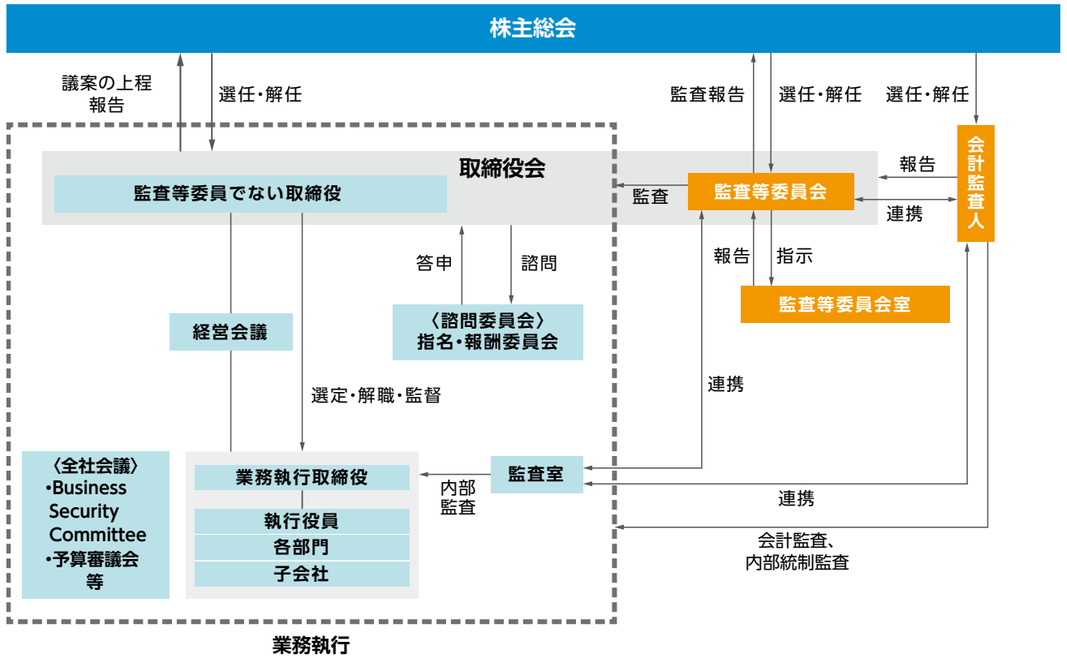
監査等委員会は、法令に基づく調査権限を行使するとともに、法令、定款等の遵守状況の点検・確認、および財務報告に係る内部統制を含めた内部統制システムの整備・運用状況等の監視等を通じて、取締役の職務の執行が法令および定款に適合し、適正に遂行されているかを監査します。

❺指名・報酬委員会

当社は、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図るため、取締役会の任意の諮問機関として、2名の社内取締役と2名の独立社外取締役から成る指名・報酬委員会を設置しています。

指名・報酬委員会は、当社の取締役(監査等委員である取締役を除く)候補者の選任プロセス、資質および指名理由並びに役員報酬体系等に関して、取締役会から諮問を受けて、その適切性等について検討し、会社の業績等の評価も踏まえ、答申を行います。取締役会は、指名・報酬委員会の答申を得て、取締役(監査等委員である取締役を除く)候補者の指名および報酬等の決定を行います。

コーポレート・ガバナンス体制図



社外取締役候補者に関する独立性の基準

当社は、東京証券取引所が定める独立性の基準に加え、以下の各要件のいずれかに該当する者は、独立性を有しないものと判断します。

1.現在において、次の❶から❼のいずれかに該当する者

- ❶当社の主要な株主(総議決権の10%以上を有する株主)又はその業務執行者
- ❷当社の主要な借入先(連結総資産の2%以上に相当する金額等の借入先)の業務執行者
- ❸当社の主幹事証券会社の業務執行者
- ❹当社の取引先(当社及び取引先のいずれかにおいて連結売上高の1%以上を占める取引先)の業務執行者
- ❺当社の会計監査人のパートナー又は当社の監査に従事する従業員
- ❻当社より役員報酬以外に年間500万円を超える報酬を受領している法律、会計、税務等の専門家又はコンサルタント(但し、当該報酬を受けている者が法人、組合等の団体である場合は、当該報酬が1,000万円又は当該団体の年間総売上高の1%のいずれか小さい金額を超える場合における当該団体の業務執行者)
- ❼当社より年間500万円を超える寄付を受領している団体の業務執行者

2.過去3年間のいずれかの期間において上記❶～❼のいずれかに該当していた者

※当社WEBサイトに「コーポレート・ガバナンス基本方針」を掲載しております。
当社におけるコーポレート・ガバナンスの詳細については、こちらをご覧下さい。
※当社のガバナンス報告書につきましては、日本取引所グループホームページ、「コーポレート・ガバナンス情報サービス」より、ご確認いただけます。

リスクマネジメント

当社は、リスク管理に係る基本事項を定めた「リスク管理基本規定」に基づき、全社横断的なリスク管理統括組織であるBSC(Business Security Committee)において、当社事業において想定されるリスクを洗い出し、対処方針を決定しています。各リスク所管部門においては、その方針に基づきリスクの未然防止に取り組んでいます。また、リスク発生時における情報伝達ルートの整備や緊急対策本部の設置等、被害を最小限に抑えるための緊急時の体制を整備しています。

リスク管理基本方針

企業活動に関する、人・物・金・信用等、あらゆる資源の安全を確保するため、当社は、(1)リスクを事前に予測し、その発生を未然に防止する(リスク発生の未然防止)とともに、(2)万一、リスクが発生した場合には、被害を最小限に抑制する(被害の最小化)ことを目的とした施策を継続的に推進しています。

なお、リスク対応推進にあたっての基本的な考え方は、以下の2点です。

a. 経営資源の適正配分および実効性の確保の観点から、発生率が高く、かつ、発生した場合の影響度が大きいリスクから優先的に対応を進める。
b. 事業継続性の観点から、仮に事故等が発生しても、事業活動の中断あるいは停止といった事態に至らぬよう、被害および損失の最小化を目指す。

リスク管理基本規定における主な想定リスク

1. 経営全般に係るリスク
2. 事故・災害に係るリスク
3. 事業中断に係るリスク
4. コンプライアンスに係るリスク
5. 情報に係るリスク
6. 知的財産に係るリスク
7. 人事・雇用に係るリスク
8. 税務・経理に係るリスク
9. 製品・サービスに係るリスク
10. 安全・衛生に係るリスク
11. 環境に係るリスク
12. 与信に係るリスク

BSC(Business Security Committee)

当社は、リスク管理全般を統括する組織として、BSC(Business Security Committee)を設置し、リスク管理に関する全社方針の策定およびリスク対応の進捗状況の確認等を行っています。

また、情報漏洩リスク、金融市場リスク、品質リスク等の個別リスクについては、社内規定等を定め、適切に管理しています。

BSCの構成と目的

1 構成

BSC(Business Security Committee)

委員長：会長兼CEO
委　員：社長兼COO、副会長、副社長並びに各部門統括役員、担当役員
事務局：総務部

各部門 / 国内関係会社 / 海外関係会社

2 目的

リスク管理に係る下記事項を遂行する。

a. リスク管理に関する全社方針の審議・決定
b. リスク未然防止策の審議・決定
c. 新たなリスク事象に関する対応協議
d. リスク管理全般に関する情報交換
e. リスク管理に関する社内啓蒙
f. リスク対応進捗状況の確認・フォロー

事業継続への取組み

当社は、「リスク管理基本規定」に事業継続が経営上重要事項であることを定め、BCP(事業継続計画)の整備に取り組んでいます。

計画とその進捗状況は前述のBSCで報告・検討され、これに基づき、各事業所においてリスク管理・対応の強化を図っています。

緊急時の体制の整備

当社は、大地震等の大規模災害や事故が発生した場合に迅速に対応し、従業員の安全確保、資産の保護、事業の早期再開を図るため、初動対応を定めたマニュアルや対策本部設置などの体制の整備を行っています。

2017年度は、東京都心で直下型地震が発生して東京本社での業務継続が困難となった場合を想定し、九州事業所に緊急対策本部を設置して本社機能を代行するためのBCP訓練を実施しました。

安否確認システム

大地震などの大規模災害が発生した場合、被災地においては、社会インフラが一時的に麻痺し、電話等が一時的に不通あるいはかかりにくい状況になることが予想されます。SUMCOグループでは、日本国内に在勤する従業員について、迅速かつ確実に安否状況が確認できるよう「安否確認システム」を導入しています。

このシステムにより、緊急事態が発生した場合に速やかに安否を把握し、必要な連絡ができる体制の整備が進みました。災害後の復旧活動の早期化にも寄与できるものと考えています。

コンピュータシステムの災害対策

当社では、全社で使用する基幹システムに加えてその周辺システムについても二重化を行い、バックアップサーバーをスタンバイすることにより、サーバ設置場所が大規模地震等の被害を受けた場合であっても業務を継続できるような体制を整えています。

訓練(緊急事態)

SUMCOグループでは、緊急事態(地震、台風、爆発、火災、薬品漏洩等)を想定し、緊急事態のリスク箇所の評価・特定を毎年行い、リスクが高いと判断された箇所は、設備の改善や、関係者の教育や手順書に基づいた訓練を計画し実施しています。

一例として、薬品漏洩や火災等による発煙で負傷者が発生した事態を想定し、職場自衛消防隊の救出救護班員による空気呼吸器を使用した訓練や、階段で避難する場合を想定した布担架の使用訓練などを、年間を通して実施しています。

訓練終了後には、問題点を抽出して手順等の見直しを行い、緊急事態に対していかに早く確実に対応できるか改善を行っています。

また、納入時の薬品漏洩を想定し、安全でスムーズな処置ができるように、定期的に薬品納入取引先様との合同対応処置訓練を実施しています。

空気呼吸器を装着した救出訓練

階段避難を想定した布担架訓練

訓練(総合避難)

SUMCOグループでは毎年、消防計画に基づき総合避難訓練、夜間休日訓練、部分訓練を実施しています。

総合避難訓練では、消防署と連携し、地震発生による火災を想定し、消火器での初期消火訓練や消火班の消火栓使用訓練、自社設置の消防車使用訓練等を実施しています。

夜間休日訓練では実際に夜間もしくは休日に実施して、平日や昼間では洗い出せない問題点についても対応するように取り組んでいます。

応急救護訓練

初期消火訓練

環境マネジメント

SUMCO 環境基本方針

1. 環境基本理念

私たちは、半導体用の高品質なシリコンウェーハ及び石英ルツボの製造メーカとして、このかけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、次の通り行動指針を定め、環境保全活動に自主的かつ継続的に取り組みます。

2. 環境行動指針

1 事業活動を通じ、次の項目を重点課題として活動を推進します。

①事業活動における電力などの省エネルギー活動を推進し、温室効果ガスの排出抑制に努めます。
②廃棄物の排出量削減及び再利用、リサイクルの拡大に努めます。
③事業活動にて使用する化学物質の削減に努めます。
④有害な化学物質及び廃棄物の取扱管理を徹底し、環境リスクの低減に努めます。

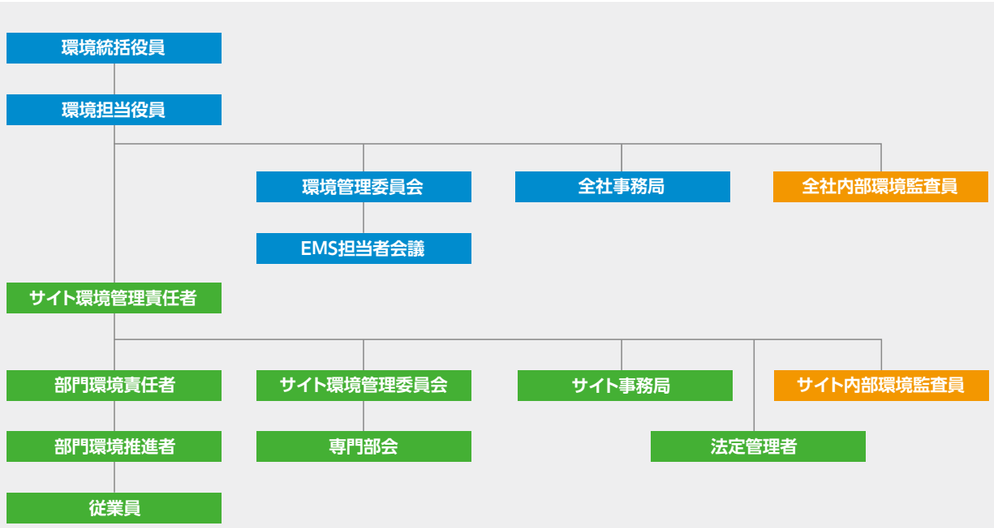
2 環境関連の法規制、条例及びその他の同意した要求事項を順守します。
3 事業活動全般において汚染の予防を図り、地球環境保全及び地域との共生に努めます。
4 環境目標を定め、定期的にこれを見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。

2017年1月1日

環境管理体制

環境統括役員のもと、環境担当役員およびサイト環境管理責任者を任命し、それぞれの役割、責任および権限を定めて環境管理体制を構築しています。環境管理委員会、サイト環境管理委員会で、情報・指示の伝達および共有化を図っています。

環境管理体制図



当社環境目標

環境目標については、2015年～2017年の目標を設定し、各種の取組みを実施しています。基準年は、前年実績としています。また、半期ごとに実績状況を確認し、必要に応じて目標値の見直しを行います。

2017年結果

（生産原単位管理）

事業活動系取組事項	中期目標:2017年	基準年	2017年目標	2017年結果
電力使用量の削減【CO_2排出量の削減】	1.1%減	2016年	1.1%減	4.3%減
化学物質使用量の削減	2.1%減		2.1%減	3.1%減
産業廃棄物排出量の削減	2.1%減		2.1%減	2.0%減
用水使用量の削減	0.8%減		0.8%減	4.3%減

有益取組事項	–	–	2017年目標	2017年達成率
部門本来業務の改善・効率化の推進		–	達成率 80%	93.3%

環境教育

お取引先への環境事故予防教育

化学物質等の納入各社様と産業廃棄物引取り各社様を対象として、当社において環境事故予防と法遵守も含めた教育を実施しています。

環境事故予防教育

具体的内容

1. 車両からの燃料、オイル等の漏洩点検実施依頼
2. 納入・引取り時、当社担当者の立会いと指示の遵守
3. 産廃車両からの汚泥・廃液等の落下を防止するための重点点検依頼
4. 過去発生した社内環境事故事例紹介

環境監査

当社では、社内監査員による内部環境監査、外部審査機関による環境マネジメントシステム審査を実施しています。

内部環境監査

内部環境監査は、環境マネジメントシステムの対象となる全組織に対して社内監査等による監査を毎年実施しています。監査の結果については環境統括役員へ報告を行い、翌年の活動に反映し環境マネジメントシステムを継続的に改善しています。

環境マネジメントシステム審査

環境マネジメントシステム審査は、外部の審査機関による毎年の定期審査および3年ごとの更新審査を実施しています。

環境関連法規制の遵守

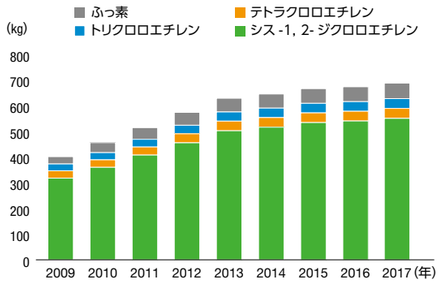
SUMCOグループは、法規制および協定で要求されている事項を特定し、遵守確認を実施しています。

また、海外化学物質規制のRoHS指令やREACH規制についても遵守しています。

野田事務所における土壌・地下水汚染対策状況

2005年に実施した自主調査において、揮発性有機化合物、およびふっ素の土壌・地下水環境基準値の超過が確認され、関係先と協議しながら対策を進めてきました。現在は、敷地境界付近に設置した揚水井戸により、汚染物質の拡散防止と回収に取り組んでいます。

地下水汚染物質累積回収量



事業活動における環境負荷

エネルギー資源の枯渇、地球温暖化や生物多様性の問題など、世界規模で環境への影響が深刻化している中で、SUMCOグループは、生産活動を行うにあたり、電力、化学物質、廃棄物、排水を著しい環境側面として特定し、あらゆる事業活動において、環境配慮や環境負荷低減の取組みを推進しています。

2017年の事業活動と環境負荷(SUMCOグループ(国内))

INPUT

エネルギー
- 電力使用量 …… 1,365 GWh
- (原油換算) …… 344,008 kL
- 燃料(原油換算) …… 6,060 kL

水
- 工業用水 …… 9.5 Mm³
- 上水道 …… 0.2 Mm³
- 地下水 …… 3.4 Mm³

PRTR法対象物質
- 取扱量 …… 944.6 t

事業活動

- 製品開発
  - 環境アセスメント実施
- 調達
  - グリーン調達
  - 安全な原材料
  - リサイクル材の使用
- 製造
  - 省エネルギー
  - 化学物質の使用量削減
  - 水の使用量削減
  - 汚染物質の排出量削減
  - 廃棄物の排出量削減
  - 法令遵守
- 輸送
  - 輸送システムの改善
  - リユースコンテナの使用
  - 資材の再利用

OUTPUT

CO_2排出量
- 693 千t-CO_2
- 内訳 電力※ …… 674 千t-CO_2
- 燃料 …… 19 千t-CO_2
- 輸送CO_2排出量 …… 4 千t-CO_2

排水量
- 海洋 …… 5.3 Mm³
- 河川 …… 3.4 Mm³
- 下水道 …… 2.9 Mm³

廃棄物
- 事業系一般廃棄物 …… 190 t
- 産業廃棄物 …… 23,384 t
- 特別管理産業廃棄物 …… 3,048 t

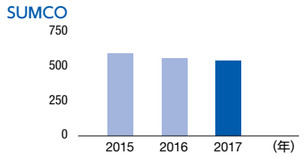
PRTR法対象物質
- 排出量 …… 8.9 t
- 移動量 …… 386.9 t

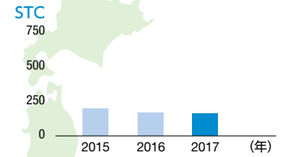
※CO_2排出係数は、電気事業者別のCO_2排出係数を用いて算定

環境負荷の推移

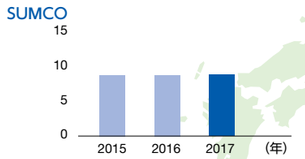
国内

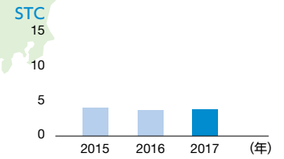
CO_2排出量 推移(国内) (千t-CO_2/年)





水使用量 推移(国内) (Mm³/年)

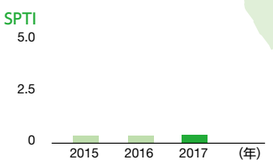


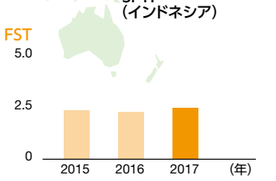


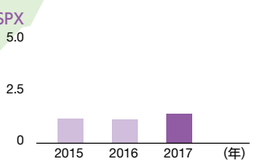
海外

CO_2排出量 推移(海外) (千t-CO_2/年)

水使用量 推移(海外) (Mm³/年)







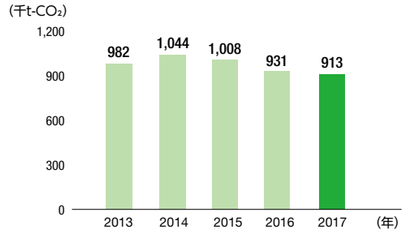
※「STC」はSUMCO TECHXIV株式会社、「SPX」はSUMCO Phoenix Corporation、「SPTI」はPT. SUMCO Indonesia、「FST」はFORMOSA SUMCO TECHNOLOGY CORPORATIONを表しています。
※海外関係会社のCO_2排出係数は、GHGプロトコル(The Greenhouse Gas Protocol Initiative)の各国排出係数を用いて算定

地球温暖化防止への取組み

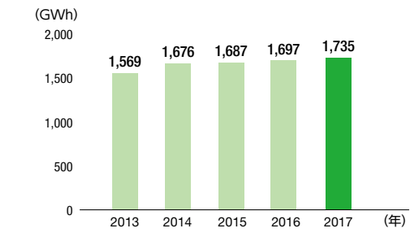
SUMCOグループでは、シリコンウェーハの製造における電力使用量を削減するために、生産の効率化や合理化を推進しています。また、生産設備およびユーティリティー設備の更新時には、省エネタイプや高効率化設備を採用しています。

事務所においても、休憩時間や昼休み時の消灯および冷暖房の適正温度を定め、省エネに努めています。このような取組みにより、CO_2排出量の削減を図っています。

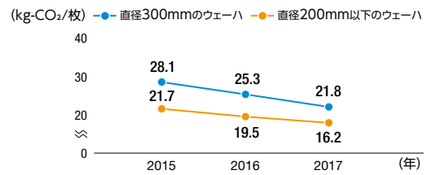
CO_2排出量（SUMCOグループ）



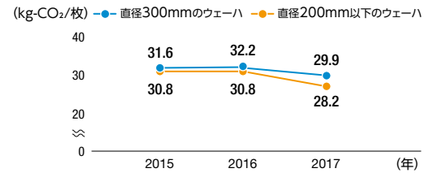
電力使用量（SUMCOグループ）



製品1枚あたりCO_2排出量（SUMCOグループ（国内））



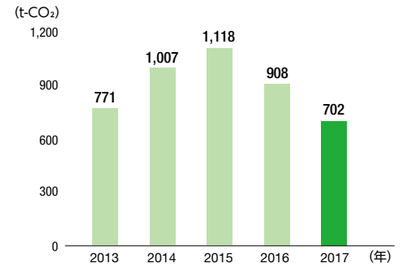
製品1枚あたりCO_2排出量（SUMCOグループ（海外））



物流工程における船便化によるCO_2排出量削減の取組み

当社では、シリコンウェーハの海外向け輸送は従来航空便によってきましたが、CO_2排出量の削減や輸送費の低減の観点から、輸送リードタイムの長期化や輸送環境の変化等の影響も考慮しながら、2009年より一部について船便化に取り組んでいます。導入にあたっては輸送テストを実施し、製品品質に影響がないことを確認し、お客様と相談のうえ進めています。

船便化によるCO_2削減量



廃棄物削減への取組み

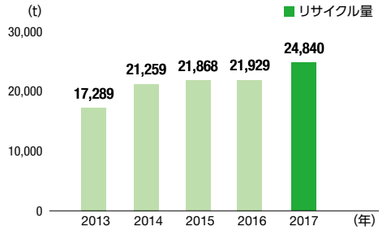
当社は、廃棄物の中でも排出量の多い汚泥の削減方法として、廃水処理の薬注量見直しによる汚泥発生量の抑制に取り組んでいます。また、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック等については、有価物化およびリサイクル化を推進しています。

リユースコンテナ採用による廃棄物削減への取組み

お客様で発生する廃棄物を削減する取組みとして、直径300mmのシリコンウェーハの出荷梱包をリユースコンテナへ切り替える取組みを進めています。2017年のリユースコンテナ使用率は62.3%でした。

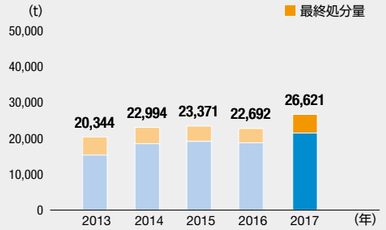
リユースコンテナの導入にあたっては、輸送テストを実施し、製品品質に影響がないことを確認しています。

総リサイクル量（SUMCOグループ（国内））



※有価で販売したものを含む

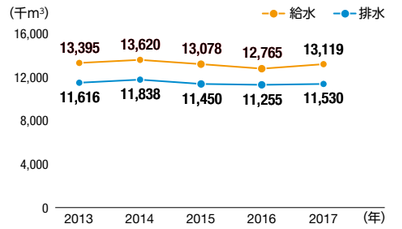
廃棄物総排出量（SUMCOグループ（国内））



水資源の有効活用

工業用水や地下水を、ろ過およびイオン交換により純水として使用しています。純水化の過程で残った水については、ユーティリティー設備の冷却水および廃水処理薬剤の希釈水等に利用しています。また、シリコンウェーハを洗浄する際のリンス水も回収する等、少量でもリサイクルにつながる取組みを行っています。

給水・排水量推移（SUMCOグループ（国内））



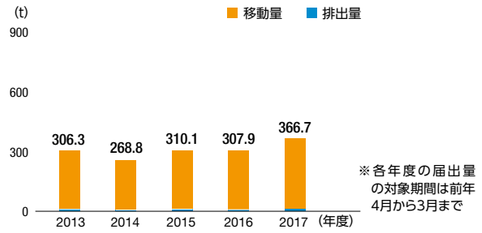
化学物質管理

PRTR法対象物質の排出量と移動量

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)により指定された物質は、排出量および移動量の届出が義務付けられています。

2017年は、PRTR法の届出対象物質数は11物質です。大半は、洗浄用の薬品および燃料に含有する物質です。

PRTR法対象物質の排出量と移動量(SUMCOグループ(国内))



PRTR法届出対象物質(第一種指定化学物質:1t/年以上、特定第一種指定化学物質:0.5t/年以上)
対象期間:2016年4月から2017年3月

(t/年)

政令番号	第一種指定化学物質の名称	取扱量	排出量				移動量	
			大気	公共用水域	土壌	埋立	下水道	廃棄物
20	2-アミノエタノール	14.3	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	18.0	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
71	塩化第二鉄	6.2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
80	キシレン	68.6	2.34	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08
88	六価クロム化合物	0.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.77
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	77.0	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
300	トルエン	6.7	5.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.83
332	砒素及びその無機化合物	0.9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	658.2	0.49	0.02	0.00	0.00	0.00	291.34
407	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	19.8	0.00	0.02	0.00	0.00	0.18	19.58
410	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	45.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	45.00
合計		915.5	8.83	0.10	0.00	0.00	0.18	357.60

※取扱量と排出量・移動量の合計が合わないのは、対象物質が分解・無害化されて排出されたため。

環境負荷(SUMCO Phoenix Corporation)

2017年度も継続して環境管理システムの改善を推進したことで、生産量が増加したにもかかわらず、消費量・放出量とも前年並み、あるいは前年より下回る結果となりました。

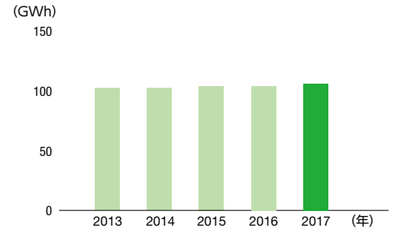
省エネルギー

各種システム、機器をエネルギー効率の高いものへ更新・改造を実施し、生産量は増加したものの、前年度の実績より微増で抑えることができました。

主な改善取組項目

- 可変周波数駆動モーターの使用を拡大
- 省エネ照明の採用を拡大
- 操業効率の最大化

電力使用量



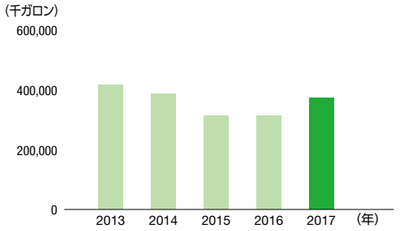
節水

水はSUMCOの製造工程で使用される主要資源であり、この数年にわたる継続的な取組みにより、リユース率の増加、使用量の低減を図ってきました。2017年は、生産量の増加に伴い使用量は増加しましたが、使用量低減への取組みの効果は維持できています。

主な改善取組項目

- 純水精製系でのリサイクル化推進
- 洗浄装置のリンス水等のリユース化推進
- ユースポイントでの適正流量管理

水使用量



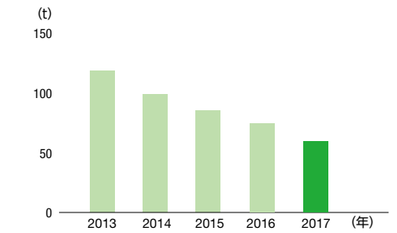
廃棄物と化学物質

2015年より砒素含有廃棄物処理残渣物と廃水の低減に焦点をあてた取組みを継続実施しており、2017年は、生産量が増加したものの、2016年と比べ低減することができました。

主な改善取組項目

- 砒素含有廃棄物処理残渣物、廃水などの大量廃棄物発生源に焦点をあてた低減活動の継続推進
- スクラップ材のリサイクル・リユース
- 資材のリサイクルの検討実施

有害廃棄物量



お客様との関わり

品質管理体制

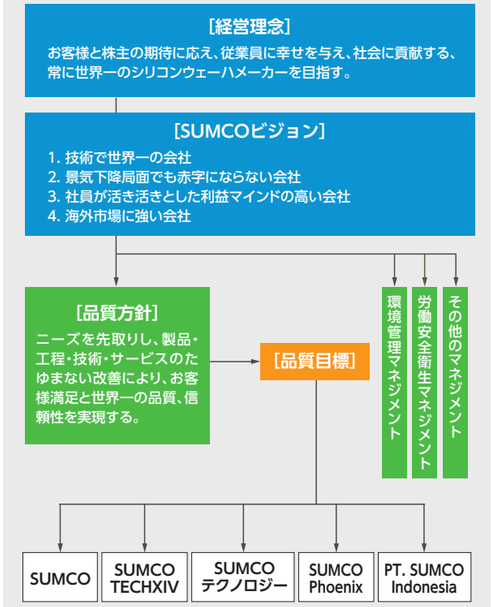
製品の信頼性と安全性の確保は、当社が果たすべき社会的責任の最優先事項の一つです。

SUMCOグループは、お客様に満足していただける高いレベルの製品を供給することを旨とする全社品質方針を定め、国内外の関係会社も含め、設計・開発の段階から製造・出荷に至るまでISO9001やISO/TS16949に基づく品質マネジメントシステムを構築し、製品の安全性・信頼性の向上に努めています。

さらに、社内品質監査の仕組みを構築し、品質マネジメントシステムの継続的な改善に努めています。

なお、SUMCOグループの国内および海外のシリコンウェーハの製造拠点は、ISO9001やISO/TS16949の認証を取得しています。

SUMCOグループ経営理念および品質方針・目標展開体系



SUMCOグループ全体で目標展開

品質教育

製品の信頼性と安全性を向上させるには、責任者のみならず作業者においても監督者としての意識を持ち、スキルを向上させることが必要です。

このため当社では、職種と階層別に必要な品質教育のプログラムを定め、それぞれの教育プログラムのインストラクターを国内のシリコンウェーハ製造工場に配置し、必要な人材に対して必要な時に教育を実施できる体制を整えています。

なお、2017年は国内工場で180回以上の社内セミナーを開催しました。

また、海外工場における品質教育の支援も行っています。

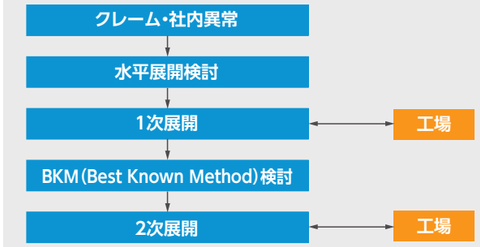
社内セミナーによる品質教育

品質問題への対応

万一、クレームや社内異常等の品質問題が発生した際には、発生元の製造工場が主体となって、異常の処理、原因究明、再発防止策を実施しています。

さらに、品質保証部主体の水平展開検討会で最良の再発防止策(BKM:Best known Method)を検討し、国内外のほかの工場での類似の品質問題の再発を防止するためにグループ会社全体への水平展開を行っています。

水平展開実施フロー



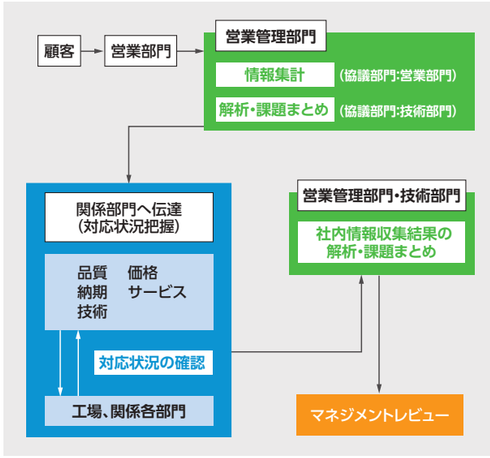
顧客満足度向上への取組み

顧客満足度調査の実施

当社では、常にファーストコールのかかる会社であるため、お客様からいただいた当社の評価に関する情報をその都度関係部門に伝達して、改善活動につなげるとともに、定期的にこれらの情報をQCDS:品質(Quality)、価格(Cost)、納期(Delivery)、サービス(Service)の項目別に分析しています。

分析結果は、経営および関係部門で共有し、各部門の改善計画へと展開して、顧客満足度の向上を図っています。

顧客満足度(CS)評価情報のフロー



お客様とのコミュニケーション

顧客満足度の更なる向上を図るべく、当社は、お客様との双方向のコミュニケーションを通じて製品やサービスの品質向上を進めています。

お客様とのコミュニケーション活動の一環として、お客様のご要望を早期かつ的確に把握し、技術開発を迅速に進め、ご要望に即した製品を確実に供給するために、技術交流会を国内外で積極的に実施しています。

技術交流会では、当社独自の技術に基づいた提案を行うとともに、当社製品のパフォーマンスの確認とフォローアップを行っています。当社はこの技術交流会を、当社の評価と信頼を確保する機会と位置づけており、技術交流会で得られるお客様の声やニーズを、当社製品の恒常的な品質改善活動に活かすとともに、お客様の高精度化要求や製品の差別化に対応した技術開発ロードマップの策定など事業計画に反映させることで、お客様における高いプレゼンスの維持・獲得を目指しています。

なお、お客様とのコミュニケーション活動に際しては、コンプライアンスに十分留意したうえで、最適な情報を提供できるよう心がけております。

安全な製品の提供

製品に含まれる化学物質の管理

当社では、法律で規制される物質およびお客様より要求される使用禁止・削減物質等の化学物質について、社内規定や標準類を定めて運用管理を行っています。

安全データシート(SDS)の提供

当社製品の化学物質の危険有害性に関する情報の伝達や安全な取扱いのために、JISZ7253に基づいた安全データシート(SDS)を提供しています。

お取引先との関わり

購買方針

当社の資材調達は、お取引先の皆様との相互信頼のもと、公正で合理的な取引を心がけています。また、関連法令や社会規範の遵守、地球環境の保全等、企業の社会的責任を果たす取組みについても、お取引先の皆様のご協力を得ながら積極的に推進しています。

1 パートナーシップに基づくお取引
お取引先さまと相互信頼に基づくより良いパートナーシップを目指します。

2 公正なお取引
クリーンでオープンな調達活動を心がけ、広く門戸を開き、公正な取引を行います。

3 VA活動の推進
VA活動によるコスト改善、新規材料、新規技術等の提案・採用を積極的に推進します。

4 購買活動における法令遵守
購買活動にあたり、関連法令、社会規範を遵守します。

5 企業の社会的責任の遂行
お取引先さまも含めた、サプライチェーンで企業の社会的責任に配慮した購買活動に取り組んでいきます。

6 グリーン調達の実践
環境負荷の少ない資材の調達を推進します。

CSR調達活動

基本的な考え方

当社は、サプライチェーンにおける社会的責任を果たすために、責任ある購買活動を推進しています。お客様に安心して製品をご使用いただくために、また、様々なステークホルダーの皆様にご満足いただくために、お取引先の皆様とともに人権、労働環境、安全衛生、環境保全などを十分に認識し、これらに配慮した購買活動に取り組んでいます。

方針の展開

お取引先の皆様に向けて定期的に開催する説明会や日常の調達活動を通じて、CSR経営への自発的な取組みの推進をお願いしています。

具体的には、当社の調達方針や依頼事項をまとめた「サプライヤーハンドブック」にCSRに関する項目を記載し、確認、閲覧できるよう、購買専用ネットに掲示しています。

本ハンドブック内において、当社はサプライチェーンとしてのCSRの推進をお取引先の皆様にお願いしており、依拠すべきガイドラインとしてRBA®(Responsible Business Alliance®)Code of Conduct(旧称 EICC®行動規範)を挙げてCSR経営の実践にご活用いただくことに加え、二次、三次のお取引先さまにも同様にCSR経営の実践を展開いただくようお願いしています。

加えて、RBA®Code of Conductに準拠した「CSR質問状」を主要なお取引先の皆様に配布し、回収して各社のCSR活動への取組み状況を確認しています。この結果をもとに、一定のお取引先に実地監査を含むCSR監査を行っています。

CSR質問状の主要項目

1. 人権・労働
   - ❶ 労働の自由
   - ❷ 児童労働の不使用
   - ❸ 労働時間の限定
   - ❹ 法定賃金
   - ❺ 人道的取扱い
   - ❻ 差別の禁止
   - ❼ 結社の自由
2. 安全衛生
   - ❶ 職場安全の確保
   - ❷ 緊急事態への準備
   - ❸ 労働災害・疾病の防止
3. 環境保護
   - ❶ 環境法令の遵守
   - ❷ 汚染の防止、廃棄物の削減
   - ❸ エネルギー消費と温室効果ガスの削減
4. 企業倫理
   - ❶ 法令の遵守
   - ❷ 取引の公正
5. 事業継続
   - ❶ リスクアセスメントおよびリスクマネジメント
   - ❷ 事業継続計画(BCP)
6. 社会貢献
7. 管理システム

資材調達のBCPの強化

リスクに応じた適正な在庫の確保や複数購買等の事前の準備を進めています。災害や事故発生時には、直ちに影響の調査に着手するとともに、並行して調達先の振り替え、代替品の採用等、あらゆる手段を講じて調達確保に努め、生産への影響の極小化に全力を尽くすべく、必要な体制を整備しています。

1 調達品の特性に応じた適正な在庫管理の継続
品目ごとに在庫量、保管場所、輸送方法等を都度見直します。

2 源流調査と対応
主要品目の製造拠点、源流を調査、確認のうえ、リスクレベルに応じた対応を実施します。

3 調達品のBCP強化と維持、見直し
主要品目ごとにリスクが発生しても適切な対応が取れるようにBCPを準備しています。

4 お取引先のリスク評価の実施
主要なお取引先に対しては、財務面や生産体制、BCPへの対応等を定期的に確認させていただき、評価結果に応じた対応を実施します。

お取引先への情勢説明会

株主・投資家との関わり

情報開示に関する基本方針

当社は、投資家への適時、適切な会社情報の開示が健全な証券市場の根幹を成すものであることを充分に認識し、常に投資家の視点に立った迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を徹底します。また、法令等で開示が求められていない会社情報についても、投資判断にとって有用な情報であれば、積極的に開示を行います。

株主・投資家とのコミュニケーション

株主総会

当社は、株主総会を、会社の方針や重要な事項についての意思決定の場であるとともに、株主の皆様に当社に対する理解を深めていただく場として位置付けています。招集通知のWEBサイト掲載や英訳版の作成を実施するとともに、総会当日は、事業報告や株主様からのご質問への回答の際、映像やナレーションを用いることで、より分かりやすい説明を心がけています。

株主通信

アニュアルレポート(2016年度版)

IR活動

当社は、株主・投資家の皆様に、経営ビジョン・事業の状況・財務内容等の情報を公平・公正かつタイムリーに公開し、企業価値を正当に評価していただくことを、IRの基本方針としています。また株主・投資家の皆様からいただいたご指摘を経営に反映させることで、企業価値を継続的に向上させるよう努めています。

発行する資料は、和文・英文同時に発表し、国内外の株主・投資家の皆様に対して、公平な情報開示を行っています。

適時開示情報は、東京証券取引所のTDnetを通じて開示するとともに、当社のWEBサイト上に、和文・英文同内容の資料を同時に掲載しています。また、アニュアルレポートおよび株主通信を発行し、経営トップからのメッセージや業績、事業の概況をお伝えすることにより、当社をより理解していただくように努めています。

地域社会との関わり

清掃活動への参加

当社千歳工場(北海道千歳市)では、工場が所在する千歳臨空工業団地内の幹線道路沿い約1.5Kmにわたり、投棄された空き缶やごみ、落ち葉等の清掃活動を実施しています。ジョギング、通勤や通学等で歩道を歩く人に気持ちよく利用していただけるよう、道路環境の維持を目指し今後も活動を継続します。

千歳臨空工業団地の清掃活動

当社米沢工場(山形県米沢市)は、工業団地の立地企業でつくる「八幡原企業協議会」の一員として、自治体や地域の小学生とともに工業団地内道路の中央分離帯に季節の花を植えたり、工業団地内主要幹線道路沿いの清掃活動をするなど、様々な環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

SUMCO TECHXIV株式会社長崎事業所(長崎県大村市)では、「大村湾をきれいにする会」が主催する大村湾沿岸一斉清掃に、毎年家族を伴った多数の従業員が参加しています。

SUMCO TECHXIV株式会社宮崎工場(宮崎県宮崎市)においても、近隣企業と協力して「清武町KINRINクリーン活動」と銘打った地域清掃活動を毎年継続的に実施しているほか、清武川の環境保全活動にも地域と連携して取り組んでいます。

清武町KINRINクリーン活動

SUMCOテクノロジー株式会社(千葉県野田市)では、国土交通省江戸川河川事務所ほか野田市近隣13市区町主催による「江戸川クリーン大作戦」に南部工業団地の一員として毎年参加し、江戸川河川敷・堤防・側溝に投棄された空き缶・ビン等の回収・清掃活動を実施しています。また、2ヶ月ごとに工場構内および隣接した市道・歩道のクリーン作戦を実施し、工業団地内の清掃活動を行うなど、一企業としての活動に留まらず、工業団地全体として活動ができるよう呼びかけを行っています。

江戸川クリーン大作戦

緑化振興への取組み

当社千歳工場では、降雪シーズンを終えた6月に、市の緑化振興財団(ちとせ環境と緑の財団)主催の「花いっぱいコンクール」にエントリーし、工場周辺道路のグリーンベルトにマリーゴールドやサルビアといった彩りのある花を植え、周辺環境の美化に努めています。

SUMCOサポート株式会社[※]野田業務課(千葉県野田市)では、自主活動による花壇の造成や種苗の植え付けといった「花プロジェクト」活動を行い、野田地区を訪れるお客様や従業員を和ませています。

※SUMCOサポート株式会社(本社:佐賀県伊万里市)は障がい者雇用を目的に設立された当社の特例子会社です。

花いっぱいコンクール

花プロジェクト

地域社会との関わり

障がい者授産施設支援

当社米沢工場では、工場や従業員の自宅から出るペットボトルや空き缶をリサイクル業者経由で障がい者授産施設に提供し、就労支援に協力しています。また、リサイクル業者から受け取った買取代金で施設に役立つものを購入し、定期的に寄付しています。

地元高校との交流

SUMCO TECHXIV株式会社長崎事業所では、工場立地時より継続して地元高校と交流を持っており、毎年、生産工程や受電設備の特高監視室の見学、インターンシップの受入れ等を行っています。また、地元の高校からの要請を受け、社員を派遣し、半導体についての授業を行っています。

地元高校への社員講師の派遣

福祉施設の防災訓練への参加

SUMCO TECHXIV株式会社長崎事業所では、「社外救助隊」を組織し、近隣の社会福祉施設での火災に備えた合同救出訓練を毎年行っています。

合同救出訓練

防災訓練等への参加

SUMCOサービス株式会社(佐賀県杵島郡)のチームは、伊万里市防火協会主催の初期消火競技大会にて、通報・消火・避難・応急手当の安全性、確実性および迅速さの競技で、パフォーマンス賞を受賞しました。

また、SUMCO TECHXIV株式会社宮崎工場では、毎年宮崎県消防局主催の屋内消火栓操法大会にチームを派遣しており、自衛消防能力の向上と防災意識の高揚に努めています。2017年も日頃の練習の成果を発揮して堂々とした演技を披露しました。

交通安全活動への参加

当社千歳工場では、毎年春と秋の交通安全運動週間に行われる「セーフティコール活動」に参加しており、通行するドライバーや歩行者に交通安全の呼びかけを実施しています。

当社九州事業所(佐賀県)では、地区の安全運転管理者協議会の一員として、通学路や住宅街の「カーブミラー清掃活動(3月)」および薄暮時の早めのライト点灯を呼びかける「早めのライト点灯運動(11月)」に毎年参加し、交通安全運動を実施しております。

また、SUMCO TECHXIV株式会社宮崎工場では、宮崎南警察署、宮崎南安全運転管理者等協議会より、2017年の「安全運転管理モデル事業所」の認定を受け、重大交通災害撲滅に向け、交通ルールの遵守と交通マナーの高揚に努め、交通事故防止活動に積極的に取り組んでいます。

セーフティコール活動

早めのライト点灯運動

女性による安全衛生パトロールに参加

SUMCO TECHXIV株式会社長崎事業所では、女性社員の代表が、長崎労働局が編成した女性のための安全衛生パトロール隊「輝く女性を応援し隊!」の一員として、県内の事業所や工事現場のパトロールに参加しています。

女性による安全衛生パトロール

地域行事への参加

当社JSQ事業部がある秋田市茨島地区では、社員が会長を務める「茨島竿燈会」が毎年「秋田竿燈まつり」で演技を披露しています。今年の「竿燈妙技会※」では惜しくも入賞を逃しましたが、「夜竿燈※」では勢いのある差し手の演技に、全国から集まった観客から大きな声援が送られました。

※「竿燈妙技会」は、秋田竿燈まつり期間の昼間に行われる竿燈や囃子の技術の保存を目的に行われる竿燈の演技を競う競技会です。夜に行われる竿燈を「夜竿燈」と呼びます。

JSQ事業部内での「お披露目」

夜竿燈

また、当社九州事業所では、伊万里市に事業所を構える企業として地域の行事を盛り上げるため、毎年秋に催される「いまり秋祭り 市民総踊り」に参加し、地域の活性化に貢献しています。

いまり秋祭り 市民総踊りに参加

スポーツ行事への参加・協賛

当社は地域のスポーツ行事への参加・協賛も行っています。当社九州事業所は、毎年、伊万里ハーフマラソン大会にランナーゼッケンの協賛を行っています。2018年大会には全国から3,000名以上が参加し、初春の伊万里路を駆け抜けました。

また、九州事業所のSUMCO伊万里駅伝チームは、2018年1月28日に開催された第71回東西松浦駅伝大会(佐賀新聞社主催)に参加し、2年ぶり12回目の優勝を飾りました。

SUMCO TECHXIV株式会社は、2017年12月に、同社長崎工場が所在する大村市の市制施行75周年記念として行われた大相撲大村場所に協賛を行いました。

第71回東西松浦駅伝大会

従業員との関わり

人権の尊重

SUMCOグループでは、「SUMCO CSR方針」において、安全・健康・快適で適正な職場の確保、人権・能力・個性の尊重、および公正で多様な働き方の実現を宣言し、従業員が活き活きと働ける職場の実現を目指しております。

この方針のもと、SUMCOグループでは、人種、宗教、性別、年齢その他の不合理な事由に基づく差別や職場でのハラスメント行為を禁止するとともに、児童労働や強制労働を使用せず、労働時間や休日、賃金等に関する各法定基準を確実に遵守するよう努めています。

人権啓発推進委員会の設置

SUMCOグループでは、グループ会社を含めた全社委員会である人権啓発推進委員会を毎年開催し、人権啓発活動に継続的に取り組んでいます。この委員会では、各年度、人権啓発活動の方針や内容を確認・共有化してその方針に沿って各拠点・グループ会社ごとの活動を展開しており、外部専門家による講演会や視聴覚教材を用いての啓発研修等の人権啓発活動を実施しています。

人権啓発研修で取り扱った主なテーマ

- 多様性の尊重
- パワーハラスメント
- セクシュアルハラスメント
- 職場における妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメント
- 職場におけるメンタルヘルス問題
- 高齢者と人権

良好な職場環境の維持・向上

SUMCOグループでは、常に働きやすい職場環境を維持向上するため、全従業員に対し定期的に各種ハラスメント教育を行い職場での意識向上に努めるとともに、男女ともに相談員を配置したハラスメント相談窓口を各拠点に設置し、いつでも気軽に相談ができる体制を整えています。

また、男女を問わず適正な処遇を実施し、性別にとらわれない給与制度を導入しています。

人材の育成

SUMCOビジョンに掲げた「技術で世界一の会社」を目指し、新入社員から管理職・役員に至るまで、多角的なアプローチで研修の機会を提供しており、時代の変化に即して、常に社員に気づきを促し、自ら主体的に物事を考え行動できる人材の育成に努めています。さらに、毎年、経営幹部出席のもと、若手技術者の研究成果発表会を開催し、技術者のモチベーション向上にも努めています。

また、SUMCOビジョンに掲げる「社員が活き活きとした利益マインドの高い会社」を目指し、SUMCOグループ最高位の賞として「SUMCO CEO AWARD」を設け、企業価値向上に特に貢献した人・組織を毎年表彰しているほか、「TPM発表会」を毎年開催し、成果発表の機会を設けるとともに、優れた成果を表彰しています。

さらにSUMCOビジョンに掲げる「海外市場に強い会社」にするため、グループ内に多様な文化・価値観を理解・尊重する意識を醸成するとともに、留学制度の拡充や語学教育の強化等を通じてグローバルに活躍できる人材の育成に努めています。

若手技術者発表会

SUMCO CEO AWARD

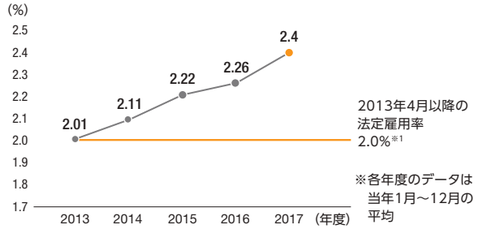
多様な人材の活用と育成

障がい者雇用

SUMCOグループでは、2004年にSUMCOサポート株式会社を設立し、同年5月に特例子会社の認定を取得しました。以後、同社をはじめ、SUMCOグループ各社において、障がいのある方が幅広い事業領域で活躍しています。

今後とも、SUMCOグループは、それぞれが実力をいかんなく発揮できるよう適材適所の人材配置に努め、雇用機会の確保と就労環境の維持改善を図っていきます。

障がい者雇用率の推移（SUMCOグループ（国内））



※1 2018年4月以降の障がい者法定雇用率は2.2%です。

高齢者の雇用

満60歳の定年を迎えた従業員が豊富な経験や高度なスキル・技能を活かして働き続けられるよう、本人が定年退職後も引き続き勤務する意欲があり希望した方は全員、定年時の処遇水準と変わらず最長65歳到達まで雇用する再雇用制度を設けています。

グローバル人材の活用

SUMCOグループは、アメリカ・台湾・インドネシアに製造拠点を持つほか、世界各地に販売拠点を持っています。SUMCOグループでは、現地雇用を活用し国籍を問わず優秀なグローバル人材を積極的に採用してゆくことで、グローバルカンパニーとして更なる成長を目指しています。

各種休暇制度

育児休暇制度や介護休暇制度、小学校就学前の子を養育する従業員の育児を支援するための勤務制度を設置し、従業員の育児・介護を支援しています。

当社における産前産後休暇・育児休暇・介護休暇の取得状況（2017年1月～2017年12月）

	男性	女性	合計
産前産後休暇取得者数	0名	8名	8名
育児休暇取得者数	0名	14名	14名
介護休暇取得者数	2名	0名	2名

また、私傷病による欠勤の場合や人間ドックの受診、家族の介護、産前の女性の定期健診などに利用できる休暇として、「特別福祉休暇」を導入しています。これは、失効する有給休暇のうち、毎年6日を限度に最大60日まで積み立てることができ、従業員の不測の事態等に対する支援を行っています。

あわせて、ボランティア休暇制度や長期勤続者のリフレッシュ休暇制度などの休暇制度も備え、従業員が働きやすい職場環境の向上に努めています。

社内レクリエーションの開催

当社では、職場のコミュニケーションのより一層の活性化と、従業員の健康に対する意識向上を図ることを目的として、社内レクリエーション行事を行っています。当社JSQ事業部では、2017年に「職場対抗ドッジビー大会」を開催し、多くの従業員が参加しました。普段交流する機会のない職場との交流の機会ともなり、大いに盛り上がりました。

職場対抗ドッジビー大会

労使関係

当社は、労使間の問題については、相互理解と信頼に基づき、会社の永続的な発展と労働条件の向上に向けて話し合いを基調として解決を図ることを基本方針とし、健全な労使関係の維持に努めています。

具体的には、労使経営懇談会を原則として年2回開催し労使間のコミュニケーションを図り(情報を共有し)、労使一体となった事業運営を実施しています。

また、毎月1回生産説明会・労使懇談会を開催し、各工場においても労働組合支部と生産状況等を含む情報・意見交換を行っています。

その他、労働条件や諸制度の見直し等の重要な労使課題については、多面的・総合的・長期的な観点も踏まえ、年間を通して「労使検討委員会」を開催し、労使一体となって取り組んでいます。

雇用の状況(2017年12月末現在)

従業員数

項目	社員		臨時従業員
単体	3,616名		439名
連結	7,711名		857名
	国内	5,431名	
	海外	2,280名	

地域別従業員数(連結)

地域名	人　員
日本	5,431名
北米	583名
東南アジア	337名
東アジア	1,340名
欧州	20名
合計	7,711名

従業員数の内訳(連結)

	管理職	一般社員	合計
男性	784名	6,257名	7,041名
女性	46名	624名	670名
合計	830名	6,881名	7,711名

事業所内保育所(SUMCOいまり保育園)

当社は、2016年11月1日、子育て世代の従業員の仕事と育児の両立支援策の一環として、九州事業所伊万里地区の当社敷地内に、事業所内保育所として「SUMCOいまり保育園」を開設しました。子育て世代の従業員にとってより働きやすい職場環境を提供できるようになったものと考えています。

本保育所は、新たな地域貢献の形として、「子ども・子育て支援新制度」に基づく地域型保育事業とするものであり、定員の一部を地域枠として社外にも開放しています。

当社は、多様な人材がより活躍できる職場環境の実現と、更なる地域との共生を図るため、今後も様々な取組みを進めます。

SUMCOいまり保育園

避難訓練

クリスマス会

安全・健康衛生への取組み

基本的な方針

SUMCOグループでは、CSR方針において「SUMCOで働く人に、安全・健康・快適で適正な職場を確保し、人権・能力・個性を尊重して、公正で多様な働き方を実現します」と宣言しています。

これに基づき、SUMCOグループ全社で、安全・健康衛生の取組みは以下の基本理念、基本方針を掲げ活動を推進しています。

SUMCOグループ 安全健康衛生基本方針

基本理念

SUMCO グループは、「従業員の安全と健康がすべてに優先する」との理念の下、管理監督者が率先垂範し、全員参加の活発なコミュニケーションにより、「安全で心身共に健康な快適職場づくり」に取り組みます。

基本方針

1. **全員参加で、関係法令をはじめ、マニュアルや作業手順等、決められたことを必ず守り守らせる職場づくりに努めます。**
2. **全員参加で、労働災害・事故の真因を徹底分析し、労働災害・事故の未然防止と再発防止に努めます。**
3. **全員参加で、風通しのよい職場環境づくりと心と身体の健康維持増進に努めるとともに、職業性疾病の予防に努めます。**
4. **全員参加で、交通モラルの高揚を図り、社会の模範となれる交通安全活動を推進します。**

安全・衛生への取組み

推進体制

SUMCOグループでは、グループ全体の安全衛生に関する事項の審議、承認、活動状況の報告、および情報交換を行い、グループの安全衛生管理の維持向上に資することを目的とした全社安全衛生委員会を毎年開催しています。

この全社安全衛生委員会では、安全衛生を統括する役員が出席し、グループ全体の安全、健康・衛生管理の活動状況や主要な労働災害の報告、次年度の安全衛生に関する取組み課題・目標の審議・承認などを行っています。

また、各拠点においても、全社安全衛生取り組み課題に基づき各年度の安全衛生方針および目標を定め、達成に向けて日々活動しています。

労働安全衛生活動

SUMCOグループでは、労働安全衛生マネジメントシステムを導入し、完全無災害を目標として、活動を展開しています。このシステムは、事業者が従業員の協力のもとに「計画−実施−評価−改善(PDCA)」という一連の過程を定めて、継続的な安全衛生管理を自主的に行うことにより、職場の労働災害の防止を図るとともに、従業員の健康の増進および快適な職場環境の形成の促進を図り、職場における安全衛生水準の向上に資することを目的とした安全衛生管理の仕組みとなっています。

労働災害防止策

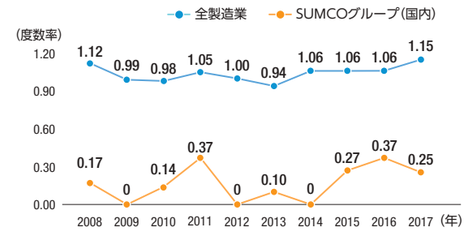
SUMCOグループでは、労働災害防止策として、設備・作業・化学物質等についてリスクアセスメントを実施し、設備の改善、作業手順の見直しや適切な保護具の具備といった対策を通じて、労働災害リスクの低減を行っています。

さらに化学物質の導入には有識者による専門部会を設け、事前審査を実施することにより安全性の確保を図っております。

また新たなリスクアセスメントの手法として、爆発・火災防止のためのリスクアセスメントも運用を開始しました。

爆発・火災防止リスクアセスメント教育風景

災害度数率※の推移



※災害度数率＝労災死傷者数÷延べ労働時間×1,000,000

労働・安全衛生・防災　表彰歴等(過去5年)

年月	項目	対象
2013年 10月	労働基準協会連合会長表彰(安全管理優良事業場)	SUMCOテクノロジー株式会社 野田工場
2013年 10月	佐賀労働局 安全衛生佐賀労働局長表彰(奨励賞)	株式会社SUMCO 九州事業所(久原)
2013年 10月	厚生労働省 無災害記録第2種(1050万時間)	株式会社SUMCO 九州事業所(佐賀工場)
2014年　2月	厚生労働省 無災害記録第1種(700万時間)	株式会社SUMCO 九州事業所(久原)
2014年　5月	佐賀県知事感謝状 高圧ガス優良保安責任者表彰	株式会社SUMCO 九州事業所(佐賀工場)
2015年　7月	北海道労働局長表彰(奨励賞)	株式会社SUMCO 千歳工場
2016年　3月	総務省消防庁消防団協力事業所に認定	株式会社SUMCO 九州事業所(伊万里)
2016年　6月	厚生労働省 無災害記録第2種(1050万時間)	SUMCO TECHXIV株式会社 長崎工場
2016年 10月	優秀安全運転事業所 銅賞	SUMCO TECHXIV株式会社 宮崎工場
2017年 10月	山形労働局長表彰(奨励賞)	株式会社SUMCO 米沢工場
2017年 10月	宮崎防火等協議会(感謝状)	SUMCO TECHXIV株式会社 宮崎工場
2017年 12月	日本赤十字社 功労感謝状(献血)	株式会社SUMCO 千歳工場

健康への取組み

SUMCOグループの従業員の健康に関する考え方

SUMCOグループでは、「従業員の安全と健康がすべてに優先する」との理念のもと、明るく活き活きと働きがいのある職場づくりを目指し、「SUMCOグループ健康宣言」を社内外に発表いたしました。

SUMCOグループ健康宣言

SUMCOグループは、従業員の健康を重要な経営資源の一つととらえ、個人の自発的な健康増進活動に対する支援と、組織的な取組みと積極的な推進により、全員が活き活きと仕事をする企業グループを目指します。

健康活動指標の設定とPDCAの展開

SUMCOグループでは、国内の全事業所共通の健康活動の指標を定め、単年目標に加えて3年後、5年後の中期目標値を設定しています。健康統括役員を先頭に諸活動を実施し、定期に開催する「健康推進会議」「全社健康委員会」にて評価・改善策を検討し、PDCAを展開します。

全社健康活動指標(8項目)

1. 喫煙率
2. 肥満率
3. メタボリックシンドローム率
4. 睡眠で休養が取れていない社員率
5. 30分以上の運動習慣がある社員率
6. ERI健康リスク
7. 高ストレス者率
8. 定期健診二次検診受診率

健康増進の具体的な取組み

健康活動を強化するにあたって、まず従業員と家族へ、健康への関心を深めていただくことをお願いする手紙を送りました。健康維持・増進は自身の日常的・自発的な活動がベースとなるため、家族ぐるみで意識を持って、健康諸活動を積極的に実践していただくことをお願いしています。

会社においても、従業員の健康維持・増進活動を全社横断的・計画的に推進しています。

具体的な健康活動の一例

- 職場対抗禁煙チャレンジレース
- 出前健康教室(禁煙、メンタルヘルス)
- ウォーキング活動、スポーツジム契約
- 定期健康診断の拡充(がん検診)
- 定期健康診断二次検診完全受診活動
- ストレスチェック結果に基づく職場改善活動
- 転倒防止体操

転倒防止体操の教育風景

SUMCOグループの事業所・工場のISO14001の認証取得状況、大気・水域への排出状況について報告します。

事業所・工場名		株式会社SUMCO 九州事業所(長浜)	株式会社SUMCO 九州事業所(久原)	株式会社SUMCO 九州事業所(佐賀)
業務内容		ウェーハの設計・開発・製造	単結晶およびウェーハの設計・開発・製造	単結晶およびウェーハの設計・開発・製造
ISO14001：2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2018.1.11	2018.1.11	2018.1.11

大気		測定結果(規制値)	測定結果(規制値)	測定結果(規制値)
窒素酸化物(NOx)	ppm	ボイラー 90(150)	ボイラー 66(150)	ボイラー 69(110)
硫黄酸化物(SOx)	m^3N/h	ND(K値規制 17.5)	ND(K値規制 17.5)	／
ばいじん	g/m^3N	ボイラー ／ (／)	ボイラー ／ (／)	ボイラー ND(0.001)

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/ℓ	／	／※1	／	／※1	10	7.4
COD(化学的酸素要求量)	mg/ℓ	30	11.7	30	7.2	／	／
浮遊物質量(SS)	mg/ℓ	30	12	30	6	25	9
N-ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	5	0.5	5	0.6	3	ND
沃素消費量	mg/ℓ	／	／	／	／	／	／
ふっ素およびその化合物	mg/ℓ	8	4.3	8	2.8	3	0.9
アンモニア性窒素	mg/ℓ	80	15	80	27	100	13.9
硝酸性窒素	mg/ℓ						
亜硝酸性窒素	mg/ℓ						
窒素含有量(T-N)	mg/ℓ	120	35	120	31	60	27.8
クロム含有量(T-Cr)	mg/ℓ	0.2	ND	0.2	ND	0.2	ND
燐含有量(T-P)	mg/ℓ	12	0.22	12	0.23	8	0.89
砒素	mg/ℓ	0.05	ND	0.05	ND	0.1	ND
トリクロロエチレン	mg/ℓ	0.1	ND	0.1	ND	0.1	ND

※1 九州事業所(長浜)、および九州事業所(久原)において処理水は海域に排出されるため、化学的酸素要求量(COD)についての排水基準のみ適用を受けます。
※数値は、年間最大値を記載
「／」は対象外、「ND」は未検出、「－」は未測定項目

事業所・工場名		株式会社SUMCO 野田事務所	株式会社SUMCO 米沢工場
業務内容		ウェーハの製造	単結晶の設計・開発・製造
ISO14001：2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2018.1.11	2018.1.11

大気		測定結果(規制値)	測定結果(規制値)
窒素酸化物(NOx)	ppm	ボイラー 68 (260)	ボイラー ／ (／)
硫黄酸化物(SOx)	m^3N/h	0.02(K値規制 9.0)	／
ばいじん	g/m^3N	ボイラー 0.005(0.3)	ボイラー ／ (／)

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/ℓ	25	19.1	600	15
COD(化学的酸素要求量)	mg/ℓ	20	16.4	／	／
浮遊物質量(SS)	mg/ℓ	50	10	600	28
N-ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	3	ND	5	ND
沃素消費量	mg/ℓ	／	／	220	2.5
ふっ素およびその化合物	mg/ℓ	8	7.4	8	2.6
アンモニア性窒素	mg/ℓ	100	13.0	380	175
硝酸性窒素	mg/ℓ				
亜硝酸性窒素	mg/ℓ				
窒素含有量(T-N)	mg/ℓ	30	24	／	／
クロム含有量(T-Cr)	mg/ℓ	1	ND	0.5	ND
燐含有量(T-P)	mg/ℓ	2	0.2	／	／
砒素	mg/ℓ	0.05	ND	0.1	ND
トリクロロエチレン	mg/ℓ	0.1	ND	0.1	－

※野田事務所においては、東京湾の汚濁負荷量の総量規制の適用を受けるため化学的酸素要求量(COD)の規制も受けます。
※米沢工場は公共下水道に放流しており、下水道法の適用を受けます。(下水処理場からの放流先：河川) これを受けて、ふっ素およびその化合物の規制値は8mg/ℓとなっています。

事業所・工場名		株式会社SUMCO 千歳工場	株式会社SUMCO JSQ事業部
業務内容		ウェーハの設計・ 開発・製造	石英ルツボの 設計・開発・製造
ISO14001：2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2018.1.11	2018.1.11

大気		測定結果（規制値）	測定結果（規制値）
窒素酸化物（NOx）	ppm	ボイラー ／（／）	焼成炉（／）
硫黄酸化物（SOx）	m^3N/h	／	／
ばいじん	g/m^3N	ボイラー ／（／）	焼成炉 0.1（0.2）

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD（生物化学的酸素要求量）	mg/ℓ	600	4.2	160	11
COD（化学的酸素要求量）	mg/ℓ	／	／	／	／
浮遊物質量（SS）	mg/ℓ	600	6	200	27
N-ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	5	ND	5	ND
沃素消費量	mg/ℓ	／	／	／	／
ふっ素およびその化合物	mg/ℓ	8	5.2	8	0.3
アンモニア性窒素	mg/ℓ	／	／	100	4.0
硝酸性窒素	mg/ℓ				
亜硝酸性窒素	mg/ℓ				
窒素含有量（T-N）	mg/ℓ	／	／	120	4.1
クロム含有量（T-Cr）	mg/ℓ	2	ND	2	ND
燐含有量（T-P）	mg/ℓ	／	／	16	ND
砒素	mg/ℓ	／	／	0.1	ND
トリクロロエチレン	mg/ℓ	0.1	−	0.1	ND

※千歳工場は公共下水道に放流しており、下水道法の適用を受けます。（下水処理場からの放流先：河川）これを受けて、ふっ素化合物規制値は8mg/ℓとなっています。

事業所・工場名		SUMCO TECHXIV株式会社 長崎事業所	SUMCO TECHXIV株式会社 宮崎事業所
業務内容		単結晶およびウェーハの 設計・開発・製造	単結晶およびウェーハの 設計・開発・製造
ISO14001：2015 認証取得状況	審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構	一般財団法人 日本品質保証機構
	取得時期	1999.1.11	1999.1.11
	更新日	2018.1.11	2018.1.11

大気		測定結果（規制値）	測定結果（規制値）
窒素酸化物（NOx）	ppm	ボイラー 88（260）	ボイラー 77（150）
硫黄酸化物（SOx）	m^3N/h	0.004（K値規制 17.5）	／
ばいじん	g/m^3N	ボイラー 0.01（0.3）	ボイラー − （0.1）

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD（生物化学的酸素要求量）	mg/ℓ	600	86.8	25	3.3
COD（化学的酸素要求量）	mg/ℓ	／	／	／	／
浮遊物質量（SS）	mg/ℓ	600	37	30	2
N-ヘキサン抽出物質	mg/ℓ	5	ND	5	ND
沃素消費量	mg/ℓ	／	／	／	／
ふっ素およびその化合物	mg/ℓ	15	10.7	8	1.6
アンモニア性窒素	mg/ℓ	380	65.3	100	7.7
硝酸性窒素	mg/ℓ				
亜硝酸性窒素	mg/ℓ				
窒素含有量（T-N）	mg/ℓ	240	90.2	120	10.0
クロム含有量（T-Cr）	mg/ℓ	2	ND	0.2	ND
燐含有量（T-P）	mg/ℓ	32	0.54	16	0.04
砒素	mg/ℓ	0.1	0.004	0.1	−
トリクロロエチレン	mg/ℓ	0.1	ND	0.1	−

※SUMCO TECHXIV株式会社 長崎事業所は公共下水道に放流しており、下水道法の適用を受けます。（下水処理場からの放流先：海域）これを受けて、ふっ素およびその化合物の規制値は15mg/ℓとなっています。
※SUMCO TECHXIV株式会社 宮崎事業所において処理水は河川に排出されるため生物化学的酸素要求量（BOD）についての排水基準の適用を受けます。
※SUMCO TECHXIV株式会社 宮崎事業所の大気ばいじんの測定頻度は1回／5年へ改定されています。（次回の測定：2018年）

事業所・工場名		SUMCO Phoenix Corporation アルバカーキ工場	SUMCO Phoenix Corporation フェニックス工場
業務内容		ウェーハの設計・ 開発・製造	単結晶およびウェーハの 設計・開発・製造
ISO14001認証取得状況	審査機関	DNV	DNV
	取得時期	2000.6.19	2000.6.19
	更新日	2018.6.30	2018.6.30

大気		測定結果(規制値)	測定結果(規制値)
窒素酸化物(NOx)	ton/y	0.92(10.2)	12.8(24.6)
硫黄酸化物(SOx)	ton/y	0.01(0.34)	0.28(1.25)
PM10(10μ以下粒子状物質)	ton/y	0.07(0.84)	1.08(2.5)

水質		規制値	測定結果	規制値	測定結果
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/ℓ	／	／	／	／
COD(化学的酸素要求量)	mg/ℓ	／	／	／	／
砒素	mg/ℓ	2.09	／	0.13	ND
カドミウム	mg/ℓ	／	／	0.047	ND
銅	mg/ℓ	／	／	1.5	0.05
シアン化物	mg/ℓ	0.5	／	2	ND
ふっ素およびその化合物	mg/ℓ	36	／	／	／
鉛	mg/ℓ	1.0	／	0.41	ND
水銀	mg/ℓ	0.004	／	0.0023	ND
モリブデン	mg/ℓ	2.0	／	／	／
セレン	mg/ℓ	0.46	／	0.1	ND
銀	mg/ℓ	5.0	／	1.2	ND
亜鉛	mg/ℓ	2.2	／	3.5	0.03
浮遊物質	mg/ℓ	／	／	／	／

※アルバカーキ工場では、pHと水流量の測定のみが要求されており、アルバカーキ市が定期的に排水の測定を行っています。

Note

お問い合わせ先
株式会社SUMCO 総務部 法務・CSR室
〒105-8634
東京都港区芝浦1-2-1
シーバンスN館
E-mail:sumco-csr@sumcosi.com

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C017928

Vegetable oil INK
for waterless printing
Non VOC INK Version 2